

OSFだより

第100号 2010 (H22) 年2月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138

osf-midori1911@codan.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com

OSF (Okamoto Scholarship Foundation) の活動案内 1、留学生宿舎の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

財団の目的は交流と親善

会長 岡本 正

2月3日、奨学生交流会を行なった。交流会は月に1回で、財団としては奨学生に出席を義務づけている。交流会は財団のいろいろな行事の中で、最優先に位置づけている。

今から20年前、私が企業経営からはなれ財団設立の決心をしたとき、どのような形の財団にするか、何人かの友人に相談した。その結果、次のような助言をいただいた。

「財団をつくるなら、文部省・大学のやれないことをやったほうがいい。君の家族が留学生と肌で触れ合えるような情味豊かな財団にすることだ。単なる奨学金の支給だけだとあまり価値がない。奨学金の支給は、文部省・大学・大財団(例えばロータリー)のやることで、君が少しお金を出しても、やらないよりはましだという程度だ。」

従って財団の目的は交流と親善、そのための手段として、奨学金の支給と留学生寮(会館)の運営を行なう。この目的と手段を間違えると困る。この点がOSFの特色であり、他の財団と大きく異なる点である。

具体的には、①奨学金の支給は月1回の交流パーティの席で一人ひとりに手渡しする。従って振込みはしない。②年1回の一泊バスツアーを行なう。

また、会館生は15名だが、毎週(水曜日)会食し、会館の運営は選挙で選ばれた学生の代表が行なう。今の委員長は韓国の女子学生、宋さんだ。

理事長夫妻が週に2回会館に泊まって、家族のように仲良く食事をし、いろいろな相談にのったりしている。その他年間行動スケジュールに基づいて、各種の交流を行なう。8月6日の広島原爆慰霊祭参加、夏の鴨川の海水浴等。

65年前、大戦の終わったころの話であるが、アメリカの女子学生が日本を見学旅行して「日本に行ってみて一番驚いたことは、日本には日本人しかいなかったこと」と書いていた。

私は当時その記事をよく理解できなかった。「日本に日本人だけいて、何が不思議なのだろう?」と。

今から思うと、アメリカのように国民の100%近くが移住者の国では、純粋のアメリカ人はほんの少しの先住民しかいない。他にもブラジル、カナダなどそういう国は多い。

私の故郷広島県福山市は昔は人口5万人の地方都市で、外国人、特に白人は一家族(3人)しかいなかった。ロシアの共産主義革命から逃れて日本にやって来たロシア人で、洋服屋をしていた。小学生のころ、わざわざその店をのぞきに行ったぐらい珍しかった。

このように数千年にわたり、小さな島国に住んできた日本人は、もともと国際的な交流と親善は上手ではなく、経験がなかった。

反対に中国は3千年の昔より、「世界の中心は東の長安、西のローマ」と言われて、何百という異民族が常時住んでいた。従って交流と親善は日本人より格段と上手。さらに交流に慣れているのはシルクロードに住むウイグル族で、外国語の習得も速いようだ。

今日(2月9日)はミャンマーの会館生、パイン君が私の妻にケーキを習いに来ている。もともとセンスの良い彼はすぐ上達して、おいしいケーキを作っては会館生にサービスしてくれた。また、昨年は会館の委員長を立派に務めてくれた。その彼も今月末にはアメリカに旅立つことになっている。彼のこれからのアメリカ生活の幸せを心より願っている。

単一民族だけで生きてゆく時代は終わったのだ。

閻 宏偉

中国（山東省）

千葉大学 医学薬学府先端生命科学専攻

留学生活を経験して

自分で成長したと思えること

子供の頃からの夢を抱き、6年前普通の家庭で生まれた私は、先進的な高いレベル医薬学技術を持つ国である日本に留学をしました。これまでの留学生活を振り返ると、大変なことは大変でしたが、アルバイトをしながら海外で勉強をしている生活を通じて、自分の心が強くなり、色々勉強し益々成熟したと思います。

6年前、あこがれの都に来たが、壁だらけ・・・。

最初から国の奨学金に恵まれていた人と違い、私は日本語学校の高い学費のために気を緩める余裕さえありませんでした。初めのころは、言葉が通じないので、何ヶ月間もアルバイトを見つけられませんでした。仲介の紹介で最終的に工場に入りました。中国では一人っ子だったので、何でも両親に用意してもらっていた私は、簡単な操作もあまり出来ませんでした。そして言葉もよく分からなくて、一生懸命にやっているのにミスばかり。同僚と工長からよく文句を言われました。夜が更けてから部屋の隅で泣いて、涙が止まらなかったことが何回もありました。



そのとき何度も中国へ戻ろうと考えました。しかし、それを引き止めたのは、夢を実現しなければならないという気持ちでした。毎日睡眠不足で、つらいアルバイトで、自分の心が強くなり、独力性を育てました。アルバイトの同僚から誠実であること、時間を守ること、また仕事に対して最大限の努力をし、チャレンジして頑張ることを、私は学ぶことができました。

進学するのでアルバイト先も変わりました。たくさんの人と付き合うことにより、人や物事に接する態度、思考方式なども学びました。世界に一人で存在しているわけではないので、相手の立場に立って物を見つめ、考えられるようになることが一番大切だと思います。このような私は、研究室ではいい口碑をもらいました。

現在博士2年の私はそろそろ社会人になります。留学生活は私に知識だけでなく、いろいろ身につけさせ、私の人生で実に大切な経験であり、今後の歩く道に貴重な財産になると思います。これからも自分の夢に向かい、自分の選んだ道を、信念を持ち、しっかりと歩み、勇往邁進します。

チャン・ドク・ヒン ベトナム（ダナン）

千葉大学 工学研究科 人工システム科学専攻

留学生活を経験して

自分で成長したと思えること

日本に来て4年になりました。自分で成長したと思えることは3つあります。

まずは自立できたことです。ベトナムにいる時は常に両親の助けがありました。しかし、日本に来てからは誰も頼る人がいなかったため、何でも自分でしなければなりません。お金に困り、アルバイトを探すために千葉駅周辺を1日歩き回ったこともあります。そして進学先の大学もインターネットを利用したりしながら自分で選びました。今は、困ったことがあっても、他の人に助けてもらう前に、自分で考えて解決するようになりました。

次は他の人とうまくコミュニケーションをとれるようになったことです。ベトナムにいる時、自分からコミュニケーションをとることを嫌がりました。知らない人と話せず、そのため新しい友達が出来ませんでした。そして、他人と関わることを面倒に感



じていました。しかし、今は日本人をはじめ、各国からの留学生など、色々な友達ができ、彼らから色々な面白いこと、分からないことを教わっています。

最後は、上の2つとも関連することなのですが、積極的になれました。例えば、学業においてそうです。ベトナムにいる時は、先生の言うままに勉強していたように思えますが、今は先生から研究の方向性についてアドバイスだけもらい、自分で図書館・インターネットなどを利用し積極的に調べるようになり、そして授業においても自分から積極的に質問、発表するなど、自分の態度が変わったと思います。

日本に留学し、積極的に他人とコミュニケーションをとれるようになり、その態度の変化は学校や仕事でも活かされるようになりました。誰も頼る人のいなかった日本で自立して生活を送れるようになったのは、もしかしたらこの態度の変化があったからかもしれません。

グエン ユイ ソン ベトナム (ダナン)

千葉大学 工学部都市環境システム専攻

自分の将来の道

私はベトナムの中部のダナンに生まれた。ベトナムの中部と言えば、ほとんどのベトナム人が、毎年台風襲われてる地域を思い浮かべる。台風が来た後に洪水が起こって、橋も流れて、何人も人の命が奪われてきた。そのために子供のころから、洪水のせいで亡くなる人の数を減らしたいため、橋を作りたいという夢を持っていた。

高校を卒業してから、ベトナムでの大学生活を始めようとしたが、ドンズー日本語学校が日本に留学出来るチャンスを自分にくれた。高校生のころ、私は子供のころの夢を持ち続けながらも、将来の自分の生活のためだけを考え、ベトナムの大学を受験し、建設学科に合格した。国のことについて、どうやってベトナムが発展できるのかを全く考えなかったが、ドンズー日本語学校に来てからは、校長先生が現在のベトナムの状況を具体的に教えてくれて、日本に留学する目的はなにか、校長先生の期待値を我々に預け、ドンズー留学生の愛国心を引き上げた。実際にその時、私はまだベトナムにいたから、考えが狭くて、校長先生の話をも完全には理解できなかった。

しかし、日本に来てから、実際に日本に接して、ますます校長先生の言いたいことが分かるようになった。



平和なのに、なかなかベトナムが発展できないのは、ベトナム人の頭が良くないのか、ベトナムの国民が愛国心を持っていないため、自分のことしか考えず団結できないのか、そう思う人達がたくさんいると思うが、実際はそうではない。ほとんどのベトナム人は愛国心をもっている。戦争のとき、国民が南から北まで、みんなで団結し、世界一のアメリカにも負けなかった。

発展できない理由は色々あるだろうが、一つは賄賂の問題だと思う。みんなが賄賂をもらうのを当たり前だと考え、せっかく日本などの発展国から支援のお金がきても、多くのお金が途中で賄賂として消え、実際に国民のためのインフラ整備などの金額が少なくなっている。

今、日本の大学で勉強し、できるだけ先端の知識を学び、その後は少しでもベトナムに貢献したいと思っている。日本とベトナムとの掛け橋になりたいと思う。そして、子供のころからの夢、橋を作ることを実現したい。自分の故郷の橋を一つでも作りたい。それとともに、日本に留学している間に、心が広い日本人を見つけて、ベトナムの発展に力を貸してもらいたいと思っている。

郭 保竹 中国 (山東省)

淑徳大学 総合福祉学部社会福祉学科

留学生生活を経験して 自分で成長したと思えること

私が留学生生活を経験して、自分で成長したと思えることは「乗り越える力を身につけた」ことです。

日本に来て最初のころは、日本語学校の授業についていけず、先生とコミュニケーションもとれず、私は何度も落ち込みました。そして少しずつ日本語に対し「抵抗」を感じるようになりました。そこで日本に住む親戚に相談したところ、「日本にいる以上、日本語を使わないで生きていく方法はありません。そして日本語を理解する努力をしなければ、何の為に中国を出たのかわかりません」と言われました。それから毎日わからなかった単語を辞書に登録しておいて、夜見直すことを日課にしました。すると不思議なことに、いつの間にか覚えた単語を人との会話の中でスラスラと使うことができ、相手の話もよく理解できるようになりました。振り返ってみると、日



本語を学習しはじめた頃は、話す言葉が見つからなくてじれったい思いをしていました。けれど、親戚の言葉をきっかけに、日々の努力の積み重ねの大切さを知ることが出来ました。

私は今大学で福祉について学んでいます。専門学校の時に保育士の資格を取得しましたが、更に子どもへの理解を深めたいと考えたからです。保育園でアルバイトもしていますが、子どもとのコミュニケーションは大人以上に大変です。しかし、様々な知識を得て、子どもからも保護者からも信頼される保育士として立派に成長できるよう、頑張っていきたいと思っています。

留学生の私にとっては大きな課題ですが、あきらめずに乗り越えたいと思っています。

トピックスTopics!

謹賀新年



- ◎ お正月、海外からも色とりどりのたくさんの年賀状が届いた。みんな元気で仕事を頑張っているし、二世たちも順調に育って幸福に暮らしている様子は何よりも嬉しい便りだ。

近況ニュース

- ◎ 12月30日、李娜さん（H19 奨学生、中国）が来日中のご両親を連れて、広島から車で訪ねてくれた。夜、近くの居酒屋に、その頃の仲間10人が集まり、楽しい時間を過ごした。ご両親も嬉しそうだった。親孝行が出来てよかったね。
- ◎ 1月6日、会館で今年の委員長選挙があり、第20代委員長に宋沃炷さん（韓国、敬愛大）が決まった。会館のお姉さんとして、これから1年、よろしくお願ひします。
- ◎ 1月21日、金珉三君（韓国、神田外大）がフィリピンでの語学研修のため会館を退去した。健闘を祈っている。
- ◎ 2月23日、昨年委員長のパイン君（ミャンマー、敬愛大）が、お兄さんと仕事をするためアメリカへと飛び立った。委員長としてよく活躍してくれた。本当にありがとう。
- ◎ 蔡熙元君（韓国、神田外大）が入居。これからよろしくおねがひします。

会館生クリスマスパーティ ゲストも大勢参加して盛会だった。



会館生新年会 1月20日
食事のあと福引をした。
ねらっていたものがゲット出来て大まんぞく 😊



結婚・出産おめでとう！！

- 12月25日、姜美子さん（H16 奨学生、中国）に長男誕生。ジャンボサイズの元気な赤ちゃんだとか。楽しみだね。
- 2月5日、翁旭強さん（17 奨学生、中国）に長女誕生。
- 1月10日、チャン・ユイ・ヴ君（H20 奨学生、ベトナム）が母国にて結婚。
- 1月25日、チャン・ドク・ヒン君（奨学生、ベトナム）が母国にて結婚。

♡ 初春のおめでたいお便りありがとう。♡
みなさんのお幸せを心より祈っています。



奨学生新年会 1月14日、今年初めての例会は鍋パーティだった。三種類の鍋と正月料理を囲んで満腹したあと福引を楽しんだ。学生にとって就職活動や卒論提出と忙しい時期、みんな張り切っている。



会館生2月例会 2月17日
いつもと気分を変えてインド料理店で。今夜はパイン君の送別会となった。明日から全員参加で2泊3日のスキー旅行だ!!